

Economic Indicators

発表日: 2020年4月20日(月)

貿易統計(2020年3月)

～輸出が前年比で大幅に減少。4月以降はさらなる急減が避けられず～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 奥脇 健史 (TEL: 03-5221-4524)

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量			
		原数値	季調値	輸出金額		前年比	輸出数量			前年比	輸入数量		
				前年比	前年比		アメリカ	EU	アジア		アメリカ	EU	アジア
19年	4月	590	▲1,738	▲2.3	6.5	▲4.2	5.4	▲1.5	▲3.5	4.2	1.5	5.0	3.4
	5月	▲9,654	▲4,804	▲7.7	▲1.5	▲8.9	▲0.8	▲5.4	▲11.8	▲1.2	5.8	8.5	▲2.9
	6月	5,881	▲153	▲6.6	▲5.2	▲5.5	2.9	▲6.1	▲5.3	▲3.2	2.9	▲6.2	▲3.7
	7月	▲2,539	▲1,520	▲1.5	▲1.1	1.4	10.1	5.7	▲5.0	6.6	9.4	0.9	8.3
	8月	▲1,522	▲1,235	▲8.2	▲11.8	▲5.9	▲3.5	▲1.5	▲8.9	▲6.1	▲3.0	▲3.3	▲4.1
	9月	▲1,291	▲541	▲5.2	▲1.4	▲2.3	▲4.0	3.7	▲6.0	6.7	▲1.0	8.8	8.1
	10月	112	▲764	▲9.2	▲14.7	▲4.4	▲6.7	▲8.4	▲7.1	▲6.1	▲7.6	▲10.3	▲7.0
	11月	▲884	▲677	▲7.9	▲15.6	▲5.0	▲9.7	▲10.3	▲2.7	▲8.1	▲1.4	▲10.6	▲8.5
	12月	▲1,591	▲451	▲6.3	▲4.8	▲1.9	▲11.4	▲7.4	0.5	1.2	▲5.0	2.5	0.5
20年	1月	▲13,151	▲1,513	▲2.6	▲3.6	▲1.6	▲8.9	▲9.1	▲1.5	▲1.7	▲19.9	1.2	0.3
	2月	11,088	4,822	▲1.0	▲13.9	▲2.4	▲4.5	▲9.7	▲0.9	▲17.3	▲11.1	▲8.5	▲25.0
	3月	49	▲1,900	▲11.7	▲5.0	▲11.2	▲15.9	▲9.1	▲10.5	▲2.5	▲1.8	▲2.6	▲2.6

(出所)財務省「貿易統計」

○新型コロナウイルスの影響により、輸入が前年比▲11.7%と大幅に減少

財務省より発表された3月の貿易統計によると、貿易収支は49億円の黒字（コンセンサス：4,546億円の黒字、レンジ：452億円～8,000億円の黒字）となり、コンセンサスを下回る結果となった。輸出金額は前年比▲11.7%（コンセンサス：▲9.5%、レンジ：▲30.5%～▲5.5%）、輸入金額は同▲5.0%（コンセンサス：▲9.2%、レンジ：▲27.1%～▲3.8%）となり、特に輸出金額の減少幅が大きい。

季節調整値でみると輸出金額は前月比▲4.1%、輸入金額が同+7.2%となり、貿易収支は▲1,900億円の赤字となった。新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受けて輸出が減少した一方、輸入が2月の急減から反発したことで、季節調整値での貿易収支は赤字となった。

2月時点では明確に影響の出ていなかった輸出が減少しており、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を反映する結果となった。欧米では都市封鎖等によって経済に著しい下押し圧力が及んでいる状態であり、日本からの輸出も先行きはさらなる急減が必至である。4月以降の輸出は一段と減少幅を拡大させるだろう。

○実質輸出は前月比▲2.3%とマイナスに転じる

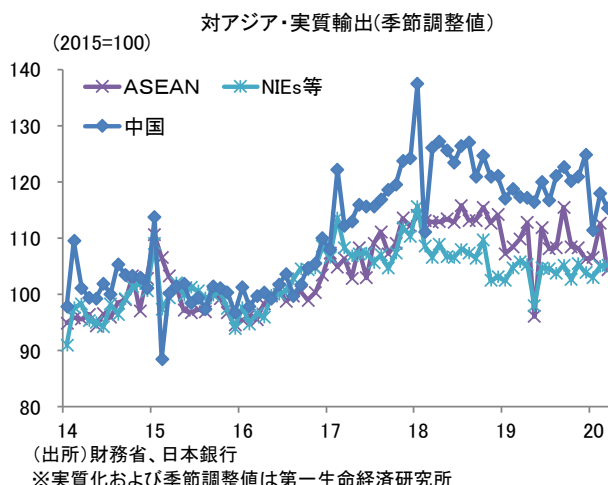
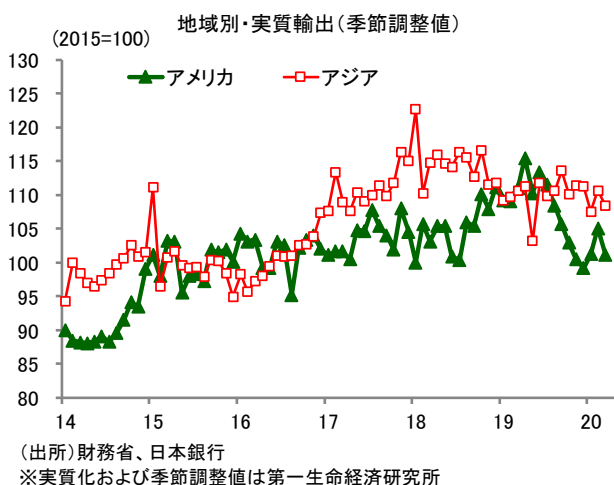
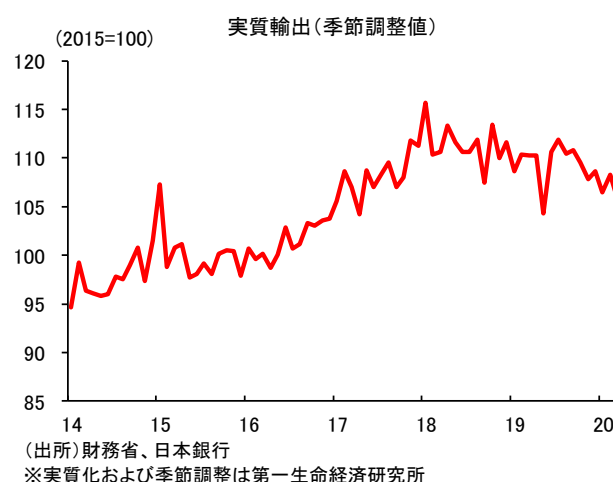
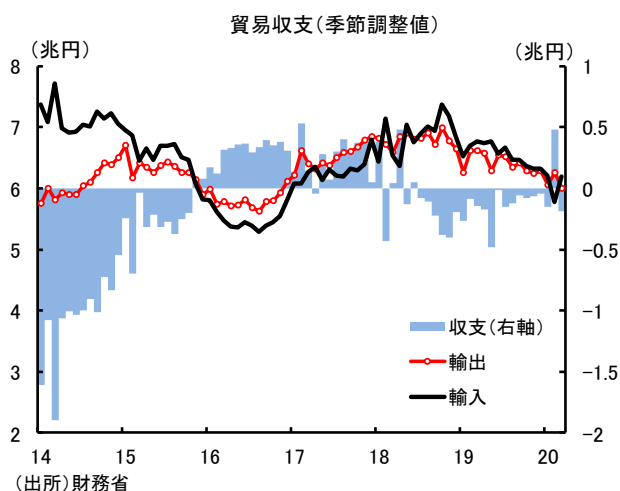
為替などの価格変動の影響を除いた3月の実質輸出は、前月比▲2.3%（2月：+1.7%、実質化・季節調整は第一生命経済研究所試算）となった。輸送用機器、一般機械、電気機器等を中心に減少した。

米国向けは前月比▲3.8%と2月までの持ち直しの動きから一転、マイナスに転じた。化学製品、一般機械、輸送用機器がマイナスに寄与している。また、アジア向けも▲2.0%とマイナスに転じており、特に全体として輸送用機器が大幅なマイナスとなったとみられる。4月以降についても、世界的な経済活動の制限は続いており、先行きはさらなる落ち込みが見込まれる。

○世界的に経済活動の制限が続くなか、先行きも輸出入の下振れは必至

3月の貿易統計は新型コロナウイルスの世界的感染拡大を反映する結果となった。2月時点では影響が明確にみられていなかった輸出が、3月は前年比で大幅に減少している。一方、2月の輸入急減の主因となった中国からの輸入については、輸入金額が前年比▲4.5%（2月：▲47.1%）と下げ幅を大幅に縮小させており、生産活動の回復が影響しているとみられる。

新型コロナウイルスの感染拡大終息時期は依然不透明で、世界各国での経済活動の強い制限は続いている。日本でも緊急事態宣言が全国に発令されるなど、制限がより強まった。都市封鎖などの制限措置を延長する国もみられるなど、影響は更に長期化する可能性が高い。4月以降も輸出入は大きく下振れる可能性が高いだろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。